

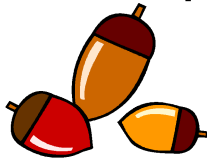
啐啄

N0.735

☎ 25-5125
☎ 25-3150

「絆（つながり）」ということについて

校長 峯 明 紀



10月5日から後期がスタートしました。後期のスタートにあたって子どもたちには始業式の中で、自分のめあてをしっかりと立てて、自信をもって取り組んでいくこと、「新井田小よい子のやくそく」や新しい生活様式のマナーを守って生活することについてお話しました。学校の教育活動も、まだまだこれまで通りの実施というわけにはいきませんが、校外での活動が可能になるなど、少しずつ活動の範囲を広げることができてきました。今年度最初の本格的な行事となった「運動会」も肌寒い中ではありましたが、保護者の皆様の御理解・御協力と6年生を中心とした子どもたちの頑張りで、無事に終えることができました。心から感謝申し上げます。

さて、今回の標題である「絆（つながり）」ということについて、2つのうれしい出来事がありました。それを紹介したいと思います。

1つは10月1日（木）に行われた市内お話し大会です。本校の代表は6年生の金田悟郎君でした。金田君は、根城南部氏の歴史について学んだこと、「新田城まつり」の中止、そして修学旅行で訪れる予定だった遠野市への訪問ができなかったことなどをとおして、新井田と遠野との深いつながりを感じ、自分たちもつながりを意識しながら次回の「新田城まつり」には中学生として参加したいと話してくれました。ぜひとも「新田城まつり」実行委員会の皆様にも聞いていただきたい内容でした。

2つ目は、遠野市の皆様の心遣いです。先月号に、修学旅行で遠野市を訪問できなかった6年生が、プレゼントにメッセージDVDを添えて送ったこと、遠野市からも、記念品の河童の置物を送っていただいたことを記載させていただきましたが、遠野市の広報誌である「広報遠野」に「心温まる南部藩の縁」というタイトルで、6年生の便りとDVDのメッセージを紹介してくださったのです。記事の内容は以下のとおりです。

約400年前、領地替えで遠野に移り住んだ「根城南部氏」の城跡にある八戸市立新井田小学校の6年生から本市にビデオメッセージが届きました。同校は修学旅行で本市を訪れる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で断念。メッセージには、遠野への感謝と今後の交流をつなげていきたいとの心温まる想いが込められていました。



これら2つの6年生の活動によって、新井田と遠野との絆がさらに強くなったことを実感できました。これからの活動予定になりますが、11月には、縦割り班でのすずかけ集会を実施する予定です。今年度一度も思うようにできなかった異年齢での活動で、子ども同士のつながりが深まることを期待しています。また、昔遊び交流会や昔話を聞く会、大館カルタ交流会など、これまでも実施してきた学年の活動の中で、子どもたちが、地域の皆様方とのつながりをより意識して活動できればと願っています。



「啐啄」（そったく）：「啐」は卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音、「啄」は母鶏が殻をかみ破ること。